

そよ風通信

〒480-0392 愛知県春日井市神屋町713-8 TEL/0568-88-0811 FAX/0568-88-0839 <https://www.pref.aichi.jp/addc/>

院長就任のあいさつ



愛知県医療療育
総合センター
中央病院 院長

新美 教弘

4月から中央病院の病院長を拝命しました新美でございます。この場を借りてご挨拶申し上げます。

2019年に始まった新型コロナウイルス感染症の流行は未曾有の三年間であり、健康被害は言うに及ばず人生の計画に再考を強いられた方も多くおられたと想像します。

中央病院も苦難の連続でした。コロナ病床の開設と職員療休者続出などによって苦渋の診療制限も行いまし

た。この荒波の影響でご迷惑をかけた方々にはこの場をお借りしてお詫び申し上げます。一方でコロナから学んだ事も多くあります。マスクや手指消毒といった感染対策の基本を身に付けました。オンライン診療導入によって高度かつ希少な専門性の高い医療を遠距離でも受けられるようになりました。オンライン会議は移動の時間短縮と合理化に貢献しました。このように何事も人生塞翁が馬、表裏一体と思うのです。

コロナは五類感染症の対応になります。中央病院は多様な障がいを持った方の診断から治療、日常のQOL向上に根ざした支援を従来通りに戻していきます。

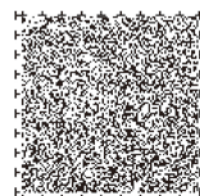
ホームページにご案内されているように、私たちは小児や障がい児者に対し専門的な医療を提供する集団です。一方で、これらの患者さんが日常どのような様子なのかを理解されずに、標準化された一般的な医療を受けられないと言う側面もあります。特に高齢化によって頻度が高くなる循環器、がん、腎臓などの疾患に関して私たちの施設だけでは専門的な医療を提供できないジレンマを抱えています。障がい児者の方の一般状態が正しく理解されるように情報を提供し、私たちに足りない分野には地域の医療機関と連携して受け皿になっていただく様に積極的に努めて参ります。

最近は発達障害を抱えるお子さんは格段に増えている実感があります。子どものこころ科では、多職種のチーム医療によって学校に行きづらい子どもたちが少しでも自信を取り戻せるような支援を行っています。児童精神科医の不足は大きな社会問題です。限られた専門医のなか、受診の機会を公平にできるように腐心していますので、ご理解のほどよろしくお願いします。

簡単ではございますが、ご挨拶に代えさせていただきます。

Contents

院長就任あいさつ	1
診療科紹介（歯科）、部門紹介（薬剤部）	2・3
工事完了後駐車場完成図紹介	4・5
発達障害者支援センター紹介、県民講座について	6・7
Topics	8



診療科紹介 — 歯科 —

歯科医長 加藤 篤

「歯医者さん」のイメージといえばなんでしょう？

昔の絵本などでは大きなペンチやドリルをもった白衣の「歯医者さん」が歯を抜いたり、削ったりと恐怖心をコミカルに描いているものが多かった覚えがあります。そのためなのか機械の音が怖い、くすりのにおいが嫌だ、歯を削るのが痛い…などマイナスイメージばかりをお持ちではないでしょうか。間違っていないのですが、あくまでそれは歯科の一側面でありすべてではありません。私たちはそんな言葉を耳にするととても悲しくなります。そんなイメージを払拭するため、私たちは日々笑顔で楽しく仕事をしています。障



がいのある方が自分から進んで喜んで受診してもらえるよう診療室の中をキャラクターでデコレーションするなどの工夫をし、怖くない歯科を印象付けるため試行錯誤を繰り返しながら前進することを心がけています。町の歯医者さんでは治療が難しいような方や自分では制御できないような緊張があり口を開くことが難しい方、その他にも呼吸に問題があったり、食べることに障害があるような方など、障がいをお持ちの方はどなたでも当科で診察させていただきます。

歯科には虫歯や歯ぐきの病気を治すことはもちろんですが、それ以外にも健康な口の中を作り継続して管理するという大切な使命があります。歯が痛かったり、歯ぐきが腫れてしまうなど口の中に問題があると日常生活は楽しくない毎日になります。しかし“こだわり”などから甘いものを食べ続けたり、口の中の過敏もしくは痛みなどから歯磨きを嫌がったりとうまくいかないことも多く、障がいのある方やその保護者にはたくさんの悩みがあると思います。私たちにも解決できないこともあります。患者さんの悩みに寄り添い相談しながら改善への道筋を保護者と共に探っていきたいと思っています。どんなことでもよいので気軽に歯科へご相談ください。



薬剤部紹介

処方箋に基づく調剤のほか入院患者さんの持参薬確認、手術前休止薬の確認などを通して健康回復のお手伝いをしています。

<業務紹介>

○調 剤

錠剤やカプセル剤が服用できない患者さんには、錠剤を粉砕したり、カプセルを外して服用できるようにして調剤しています。



錠剤を
粉にします

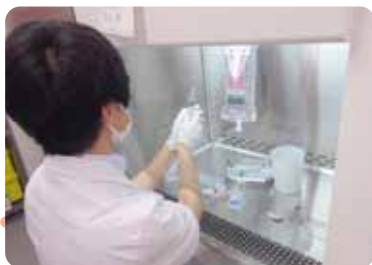
○配 薬

入院患者さんが服用するお薬は、1回分ずつ配薬ケースにセットして病棟へ払い出しています。

○高カロリー輸液・院内製剤の調製

市販の高カロリー輸液製剤に薬液を追加するなどの調製や市販されていないお薬（院内製剤）の調製を行っています。

院内製剤
調製中
です



配薬確認
作業中
です



○術前中止薬の確認

手術予定の患者さんの常用薬を確認し、術前に休止する必要があるお薬を服用されている場合は、休薬が必要になることをお伝えしています。

<最近の取り組み>

お薬は不快な症状を和らげたり、病気を治す効果がありますが、同時に副作用という好ましくない症状が現れる場合があります。薬剤部では電子カルテの機能を利用して、患者さんに発生している副作用や疑わしい症状に関する情報を収集し、大きな健康被害に繋がらないよう未然に防ぐ活動をしています。

<このはネットの利用>

このはネットにご登録頂いた患者さんの支援チームに「かかりつけ薬局」が参加し、多職種で支援できる環境整備のお手伝いをしています。

薬剤部は、安全なお薬を提供するために細心の注意を払って業務を行っています。また窓口には、呼び鈴を設置しています。お薬に関する疑問などお気軽に呼び鈴を押して薬剤師にご相談ください。

新しくなったセンターをみてみよう

旧建物取壊し駐車場整備工事が2023年6月中旬ごろに終了する予定です。
ここでは、完成後の駐車場を皆さまにご紹介します。

新・センターの顔

前庭には名板自立壁が設置されました。横幅6mの大きな施設名表示であり、新しいセンターの顔として誕生しました。



ほっとスポット

(前庭・コロニーの丘・屋上庭園)
駐車場周辺に、ベンチや芝生でほっと一息できるスペースが整備されました。

案内でわかりやすく

駐車場内には新しく案内表示を設置しました。車両・歩行者順路や駐車場位置がよりわかりやすくなりました。

※案内図 (イメージ)

歩道のヒミツ!?

歩道にはゴムチップを使用しており、通行者の負担軽減が図られました。

ナンジャモンジャって何じゃ??

ロータリー南側には、「ヒトツバタゴ」の木があります。この木は「ナンジャモンジャの木」とも呼ばれており、日本では愛知県を含む中部地方と長崎県対馬市にしか自生しておりません。
(環境省レッドリストの絶滅危惧Ⅱ類に指定)
毎年5月ごろにはきれいな白色の花を咲かせますので、ぜひ注目してみてください。

雨に濡れにくく!

センター建物の出入口すぐ前に、**優先駐車場(50台)**を整備しました。
歩道屋根も新設されますので、本館棟まで雨に濡れにくくなりました。

「優先駐車場」は、車いす利用者以外にも、内部障害者や妊婦の方なども使用することができます。

バス停がもっと便利に!

名鉄バスのバス停が新しくなりました。
バス停からセンターまで、驚きの**徒歩30秒**です。



ロータリーイメージ

シンボルツリーでお出迎え

こばと学園そばにあった「タイワンフウ」を、出入口すぐ前に移植しました。
シンボルツリーでみなさまをお迎えします。



タイワンフウ

あんしんのために

駐車場は周囲よりも高い場所にあり、南北に階段があります。
車いすの転落防止のために、階段上部に柵を設置しました。

隠れた名スポット?

本館棟の南側に「さくら広場」を整備しました。
開花時期の異なる3種の桜(ヤマザクラ・ヤエザクラ・ジンダイアケボノ)がありますので、時期のよって異なる姿を楽しむことができます。

利用者の皆様におかれましては、工事の実施に伴う通行規制にご理解・ご協力をいただきまして、ありがとうございました。

あいち発達障害者支援センターについて



はったつしょうがいしゃえん
あいち発達障害者支援センターは
かんけい き かん れんけい はったつしょうがい
関係機関と連携し 発達障害のある人たちが
ち いき あんしん せいかつ て つだ
地域で安心して生活できるよう お手伝いします



成人発達障がい当事者向けセミナーを開催しました!

「おとなの発達障がい～知る、聞く、かんがえる～」というタイトルで、2月11日(土)に刈谷市産業振興センターにて、当センター初の成人発達障がい当事者向けセミナーを開催いたしました。第1部「おとなの発達障がいについて」、第2部「支援機関と制度について」、第3部「発達障がいの方たちへの就労支援とその流れ」、第4部「①専門外来について」「②専門プログラムについて」という内容で行いました。240名程の方のお申込をいただき、「発達障がいのある方、診断を受けていなくても気になる方」を優先いたしました。当日は150名程の方が参加されました。アンケートでは、役立ったというお言葉やご要望などをご記入いただきました。多くの方のお申込やご参加、ご協力、誠にありがとうございました。



ホームページを更新中です

ホームページなどで、発達障害について県民のみなさまに情報提供します。また、県内で開催される研修やセミナーのご案内をしています。新しく「よくある質問一覧」コーナーを作成しました。動画での説明もありますので、よろしければご覧ください。

<https://www.pref.aichi.jp/site/asca/>



「発達障害の相談窓口」

あいち発達障害者支援センター

各都道府県等で、発達障害者の日常生活(行動やコミュニケーション等)についての相談支援や発達支援、就労支援(必要に応じて公共職業安定所、地域障害者職業センター及び障害者就業・生活支援センター等と連携)、普及啓発及び研修を行っています。また、障害の特性とライフステージにあわせた支援を提供するために、医療、保健、福祉、教育及び労働等の各関係機関と連携を図ります。

皆さまに情報提供をします!

ホームページなどで、発達障害について県民のみなさまに情報を提供します。また、県内で開催される研修やセミナーのご案内をしています。

URL: <https://www.pref.aichi.jp/site/asca/>



令和4年度 愛知県医療療育総合センター県民講座の開催について

テーマ ゲノムから見た発達障害

令和5年2月25日(土)に、イオンモール Nagoya Noritake Garden 3階イオンホールにおいて、令和4年度愛知県医療療育総合センター県民講座を開催しました。平成16年度から開催してきた県民講座も、新型コロナウイルス感染拡大防止のために一昨年度は開催中止、昨年度はオンラインでの開催でした。

本年度は「ゲノムから見た発達障害」をテーマに、センター内外から3名の講師を迎え、実に3年ぶりの集会開催が実現しました。一人の人間が持つ全遺伝子のセットである「ゲノム」に関する知見の集積は、様々な病気に関する捉え方はもちろん、人間そのものの捉え方にも大きな影響を及ぼしています。発達障害の原因としてのゲノム変化も次々と報告される昨今、県民の皆様の関心の高さを反映して、定員を超える120名の参加応募をいただきました。



当日は、最初に発達障害研究所遺伝子医療研究部長の林深講師が「ゲノムを調べてわかること～発達障害をより深く理解するために」と題し、ゲノムに関する概説のほか、ゲノム解析で得られた知見が歴史的に有名な発達障害者の真の病態までも明らかにしてきたことを紹介しました。

次に中央病院長で遺伝診療科医師でもある水野誠司講師が「発達障害のある子どもの遺伝診療」と題し、まず「発達障害」の正確な定義を述べ、人により「発達障害」の捉え方に違いがあり注意が必要であること、「自閉スペクトラム症」や「注意欠如・多動症」など発達障害は主に症状診断であるがゲノム解析によりその中から様々な遺伝学的診断（原因診断）が可能になってきていることを紹介しました。

3番目に名古屋大学医学部附属病院認定遺伝カウンセラーの畠山未来講師が「発達障害と遺伝カウンセリング」と題して、まだまだ認知度の低い遺伝カウンセリングでは発達障害の方やご家族へ実際にどのようなサポートを行うのか、また近年の当事者から発信される情報の有用性なども紹介しました。最後の総合討論では参加者からの活発な質問や事前登録時の質問に対して、講師が丁寧な回答を行いました。ほぼ満席の会場には、長屋元コロニー総長や熊谷元こぼと学園長、日本自閉症協会愛知県支部の岡田様などの懐かしい顔もあり、主催者にとっても大変うれしい県民講座となりました。



医療療育総合センター 発達障害研究所長 中山 敦雄

Topics

～こばと2病棟の活動紹介～ ミニ園芸活動

2021年度～2022年度は、外に出る楽しみとして、ミニ園芸活動を行いました。春に利用者さん一人一人と種まきを行い、芽が出たら小さなプランターに植え替えました。1年目は、百日草・桔梗・へびうりなど色々な種を植え、2年目は、朝顔を植えました。外に出る時には、毎日水やりを行い、花が咲くとみんなで喜び合いました。又、へびうりは、苗を職員の家の畑で栽培し、大きな実を見た利用者さんの表情は、驚きと笑顔で一杯になりました。



「へびうり」の実



「朝顔」の花



種まき

～はるひフォーラム～



フォーラムの様子



自立課題の様子

令和5年2月10日に、はるひフォーラムを開催しました。年に1度、他部署の職員も参加して、はるひの家と親子療育の家での取組を発表しています。はるひの家からは、指先の機能向上を図る自立課題の取組について、親子療育の家からは、はるひの家に入所するお子さんの退所に向けての親子支援について発表がありました。どちらも児童支援に役立つ内容でした。今後も職員の資質向上を図りながら、支援に活かしていきます。